

みなさんがお寺にお参りをするとき、はじめに本堂の前でご本尊さまにお参りをすることでしょう。

曹洞宗のご本尊さまは、お釈迦さまです。お寺によっては、観音さまだったり、お地蔵さまだったり、お薬師さまだったりしますが、本堂にお参りしてあるご本尊さまに礼拝をしてから、お墓参りに赴くのではないのでしょうか。ある意味、本堂はお寺の顔であるといっても良いかもしれません。

禅宗様式のお寺には、七堂伽藍と呼ばれるものがあります。お寺の七つの建物のことをこう呼ぶのですが、伽藍とは、元はインドで雨の降る期間に修行僧が集まって過ごす場所のことをいいます。

曹洞宗では、入り口にある山門・お釈迦さまをお祀りする仏殿・お説法を聞いたり法要を行う法堂・修行僧が寝起きや坐禅をする僧堂・台所などがある庫院・体を清潔に保つお風呂、浴司・そしてお手洗いの事で、東に司ると書く東司の七つをいいます。福井県の大本山永平寺は、曹洞宗禅宗様式の七堂伽藍が荘厳にみられます。

この七堂伽藍の中に「本堂」が無いではないかと思われるかもしれません。普通のお寺で七つのお堂を建てるのはなかなか難しいことです。本堂は、ご本尊さまをお祀りする仏殿と、お説法を聞いたり法要を行う法堂を一つにしたものです。みなさまがお参りをするお寺の本堂は、まさにお寺の中心的な建物なのです。建物の立派さや大小などではありません。本堂にご本尊さまがいてこそお寺であり、心の拠り所となるのです。

建築中の本堂を見ると、トン・テン・カンと金槌の音や、シューシューと鉦の音がかかる音が聞こえ、芳しい木の香りと共に、宮大工の匠の技が冴え渡っています。

ケヤキやヒノキ、松、栗などの木材が古くから日本の寺院建築に使われてきました。

お寺に本堂は必要ないというような意見もあるようです。しかし、もしお寺に本堂が無ければ、仏教の教えを聞くこともできず、法要を行うこともできません。ご本尊さまを祀る、私たちの心の拠り所としての本堂は、多くの檀信徒の方々の協力と宮大工の巧みな技の集大成です。

百年以上も保っている本堂もあります。これからも本堂は末永く、信仰の中心として大切にしたいものです。